

令和8年度第2回山城地方学力向上対策会議を開催しました！

令和8年度第2回山城地方学力向上対策会議を開催し、山城地方学力向上の取組についての確認や、「学力向上に係る組織的な授業改善を進めるための手立て」についての協議を行いました。

- 1 日 時 令和8年6月30日(火) 午前10時から正午まで
- 2 場 所 京都府田辺総合庁舎 講堂
- 3 出 席 者 山城地方学力向上対策会議員 22名

共有したこと

○「山城地方教育実践フォーラム」について

11月6日(金)に開催予定の「山城地方教育実践フォーラム」について公開授業校の授業参観の報告等、現在の進捗状況を報告しました。

今後、八幡市教育委員会、八幡市立男山第二中学校、八幡市立くすのき小学校と連携しながら授業づくりを進めていくことを確認しました。



○「学力向上を目指す教育実践事例集 第35集」について

各市町(広域連合)教育委員会から推薦していただいた「学力向上を目指す教育実践事例集 第35集」に実践を掲載する小・中学校について確認しました。なお、掲載校については令和9年2月5日(金)の実践交流会にて実践発表を御協力いただくことも確認しました。

交流・協議したこと

○「学力向上を目指す組織的な授業改善を進めるための手立て」について

「教育委員会／管理職として、組織的な授業改善を進めるための各学校・教職員への手立て」について、学力向上対策会議の授業改善の3つの視点で整理をしながら交流・協議をおこない、以下のような意見が共有されました。

教育委員会	学校
①主体的な学びとなる単元づくり → 学校・教職員を「主体的な学び」へと導くには	
<ul style="list-style-type: none"> ・各校が主体的に学び進められるような環境づくり。 … 必要な情報を発信していく、学ぶ機会・自己選択できる機会の設定 ・各世代(キャリアステージ)の明確化とそれを伝えていく。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任やミドルに委ねて教職員同士で学び進められるようにし、その支援や適正な評価をおこなっていく。 ・ICT等学びを自分事にしてもらうための研修の場を設定する。等
②深い学びとなる単元・授業づくり → 学校・教職員が「深く学びを進める」ためには	
<ul style="list-style-type: none"> ・各校の重点研究を進める目的や目指す姿を明確にすることを伝える。 ・単元をベースとした授業づくりの発信と、9年間の連続性・系統性を意識する必要性を伝え、学校と一緒に考える。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の先生を招聘する。(理論と実践の往還) ・先進校視察とそのための予算確保の工夫。 ・管理職自ら研修を進めることも考えられる。等
③学習指導と生徒指導の一体化 → 「資質・能力を高めながら、組織力を向上させる」には	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の雰囲気づくり。(風土調査といった客観的データを活用する教委も) ・教育委員会と各学校で情報共有を密にすること、見える化すること。 ・研修やコミュニケーションを取るための時間の確保。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・風通しのよい職員室づくり。若手を支える協力体制。 ・考え、文化の違いを受け入れる。つなげる。等



教職員が主体的に学ぶために、研究主任やミドルを中心に自分たちで学び進められるような体制づくりと、管理職・教育委員会からの適切な支援や評価が大切であることが話されました。

また、研究を深めていくには、(授業方法を議論する際に)目指す姿を明確にすることが大切であったり、先進的な研究実践(ロールモデル)に触れる機会を作る等の工夫をしたりすることが挙げられました。さらに、学び合える職員室の雰囲気づくりの大切さや、コミュニケーションを取るための時間の確保についても話が出ました。

学力向上を目指して「組織的な授業改善」を進めるにあたって、子どもたちの学びと同様、教職員の「主体的・対話的で深い学び」を学校組織全体で実現させることが鍵となるのではないかという気付きとともに、充実した交流・協議となりました。